

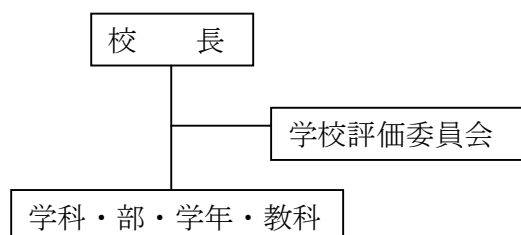
I 自己評価の概要

1 『学校経営・運営ビジョンについて』

「教育目標」と「我等の信条」が本校の『学校経営・運営ビジョン』の根幹となっている。これを実現するために4つの努力目標を設定し、さらに努力目標の実現のための具体的な下位目標を設定している。

前年度の分掌ごとの反省や学校全体として取り組むべき課題をもとに、年度初めに校長により『学校経営・運営ビジョン』が示される。

2 校内組織体制について



各学科・各部・各学年・各教科等の実践を組織横断的に評価するために、校務分掌組織とは別に学校評価委員会が組織されている。

3 自己評価年間計画について

	学校評価委員会の活動	学校評議員の活動
4月	「学校経営・運営ビジョン」の策定	第1回学校評議員会
5月		
6月		
7月		
8月		
9月	第2回学校評議員会	
10月		アンケートの作成
11月		アンケートの実施
12月		アンケートの集計
1月		アンケートの分析
2月		学校評価のまとめ
3月		「自己評価実施報告書の作成」
		次年度スクールビジョン作成に向けた提言

II アンケートの概要

1 実施時期、実施方

教員	11月26日配布	12月8日〆切	無記名	選択方式
生徒	11月26日配布	12月8日〆切	記名	選択方式
保護者	11月26日配布	12月8日〆切	記名	選択方式

- ・今年度も昨年度同様アンケートによる評価は1回のみ、2学期終わりに実施することとした。
- ・アンケートは生徒、保護者、教員の3者を対象に生徒には16、教員、保護者には15の調査をした。設問1～12はビジョンに示される項目を評価する内容であり、設問13～16はビジョンに関わらない学校全般を評価する内容とした。

2 アンケートの回答数

対象	今年度のアンケート			昨年度のアンケート		
	対象数	回答数	割合	対象数	回答数	割合
生徒	743	720	96.9%	742	729	98.2%
保護者	743	445	59.9%	742	417	56.2%
教員	73	73	100%	72	47	65.3%

- ・昨年度と比較して、生徒からの回収率は約1%の減となったが、保護者は約4%の増となった。教員については100%に達した。

3 評価基準について

- ・それぞれの項目の達成度を1～4の評価基準で回答を求めた。4段階評定としたのは、中間回答（どちらでもない）の層を、肯定的評価または否定的評価のいずれかに振り分けるためである。

4 アンケートによる評価のまとめ

アンケート結果の分析

努力目標（1）「学習意欲の育成」に関して

《データ》 ※（ ）は昨年のパーセンテージ

○生徒アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | |
|--|-------------|
| 1 本校では、ものづくりをとおして、知識、技術・技能を修得できると思いますか | 97.6% (98%) |
| 2 授業方法は工夫されていると思いますか | 86.0% (84%) |
| 3 授業に積極的に取り組むようになりましたか | 87.2% (87%) |

○保護者アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | |
|---|-------------|
| 1 本校では、ものづくりをとおして、知識、技術、・技能を修得できると思いますか | 97.3% (99%) |
| 2 授業の参観や、またはお子様の話から、本校の授業はわかりやすく展開されていると思われませんか | 80.0% (81%) |
| 3 お子様が学習している科目の内容や評価のしかたについてご存じですか | 61.1% (64%) |

○教員アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | |
|--|-------------|
| 1 本校ではものづくりをとおした知識、技術・技能が修得できる体験型の学習の充実を図ることができていますか | 94.5% (94%) |
| 2 わかりやすい授業をするために、授業の工夫を行っていますか | 91.8% (87%) |
| 3 学ぶ意欲を引き出す評価の工夫・充実を図っていますか | 89.0% (85%) |

《考察》

努力目標（1）「学習意欲の育成」に関しては全体として高い評価が得られている。

設問1のものづくりをとおして知識・技術・技能を修得できるとした回答は、生徒・保護者・教員いずれも昨年同様9割を超える高評価である。わずかに生徒・保護者のポイントが減ってはいるが、ものづくりを中心とした専門教育への生徒・保護者の期待の高さがうかがわれる。しかし教職員では94.5%が肯定的回答なのだが、その内訳は『特にそう思う』が42.5%に対し『少しそう思う』が52.1%であった。さらなる努力が必要とされる。

設問2の授業方法の工夫では『特にそう思う』が教員で21.9%に対し生徒も31.7%と内訳は決して高くはなく、教員の取り組みが生徒の回答に反映された様子である。

設問3の教員が生徒に対しての意欲を引き出す評価の工夫では、肯定的回答は89.1%に上る。内訳は『特にそう思う』が19.2%となる。それに対して生徒では、授業に対しての積極的な取り組みの肯定的回答は87.2%、『特にそう思う』は30.3%となった。教員・生徒のほぼ9割が肯定回答をしたことから、教員の取り組みが確実に生徒の学ぶ姿勢に反映されていると言える。

全体的な傾向としては、昨年とほぼ同じ結果である。数値が落ちた設問は生徒・保護者・教員合わせて4問あるが、その落ち込みも数パーセントであった。低い数値として、保護者への設問で、科目の内容や評価のしかたを『よく知っている』『少し知っている』を合わせても6割に留まっている。学校側の保護者への丁寧な説明が必要であると考えられる。

努力目標（２）「職業観の育成」に関して
《データ》 ※（ ）は昨年のパーセンテージ

○生徒アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- 4 企業見学・各種講習会・講演会・進学課外などとおして、1年次から自分の進路を考えるようになりましたか 83.6% (85%)
- 5 インターンシップなどは、将来の職業を考える上で有益だと思いますか。 91.8% (93%)
- 6 講習会や課外指導に参加するなど、資格取得や検定合格のための努力をしていますか。 76.7% (78%)

○保護者アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- 4 企業見学・各種講習会・講演会・進学課外などとおして、1年次から進路意識を啓発するための指導が行われていると思いますか。 93.0% (95%)
- 5 インターンシップなどは、お子さまが進路実現を図る上で有益だと思いますか。 94.2% (95%)
- 6 お子さまは、資格取得や検定合格のために、講習会や課外指導に参加するなどの努力をしていますか。 80.0% (76%)

○教員アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- 4 企業見学会・各種講習会・講演会・進学課外などとおして、進路意識の早期啓発を促すことができていると思いますか。 91.8% (90%)
- 5 インターンシップをとおして、生徒のキャリア教育の充実を図ることができていると思いますか。 84.9% (70%)
- 6 各種資格検定合格のための支援体制は十分だと思いますか。 72.6% (74%)

《考察》

努力目標（２）「職業観の育成」に関しても、全体としては高い肯定的評価であった。

設問4の評価より企業見学・各種講習会・講演会・進学課外指導などによる進路の意識啓発や指導。そして設問5のインターンシップなど早期のキャリア教育について、昨年同様に機能していることが読み取れる。特に教員の設問5の肯定的評価が昨年度の調査では評価が一時下がったが、今年度はまた上がっている。また設問4の内訳の『特にそう思う』では保護者47.6%教員50.7%に対し、生徒37.4%という評価である。1年時に進路について意識させる難しさが読み取れる。

設問6の資格検定への努力や支援体制についても昨年同様の評価となっている。しかしこの設問についての内訳は『特にそう思う』評価は、生徒・保護者・教員それぞれが29.0% 38.9% 26.0%と低いのに対し、『少しそう思う』の評価の方が47.6% 41.1% 46.6%と高い。そして生徒と教員の評価が、ほぼ同じパーセンテージとなっているのが興味深い。先の設問3の、生徒が授業に積極的に取り組む姿勢と、教員が生徒の意欲を引き出す工夫のパーセンテージが同じで、教員の取り組みが確実に生徒の取り組む姿勢に反映されている。それは、やはり生徒の向上心の核は教員そのものだと言える。生徒が教員について行こうという気持ちさえ持てれば、それに伴って向上心も、そして周りもそれにつられてだんだんと向上して行くという、まずは教員からではないかと言える。

努力目標(3)「社会性の育成」に関して
《データ》 ※ () は去年のパーセンテージ

○生徒アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | |
|------------------------------------|-------------|
| 7 自律した生活を送り、校則や社会のマナー・ルールを守っていますか。 | 93.2% (95%) |
| 8 環境美化や省エネを心がけていますか。 | 81.7% (84%) |
| 9 部活動に積極的に参加していますか。 | 74.6% (71%) |

○保護者アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | |
|--|-------------|
| 7 お子さまは、基本的な生活習慣が確立され、校則や社会のマナー・ルールを守っていると思いますか。 | 94.4% (95%) |
| 8 お子さまは環境美化や省エネに心がけていますか。 | 76.6% (80%) |
| 9 お子さまは部活動に積極的に参加していますか。 | 82.5% (75%) |

○教員アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | |
|---|-------------|
| 7 HR、服装髪指導、登校指導、部活動をとおして、社会性・規範意識や基本的な生活習慣を身につけさせる指導に力を入れていますか。 | 87.7% (81%) |
| 8 校内美化、省エネの推進、実習での服装指導などをとおして、環境と安全に対する意識を高める指導に力を入れていますか。 | 79.5% (74%) |
| 9 生徒が部活動を通して社会性を身につけ、自己実現を図ることができるように配慮していますか。 | 87.7% (77%) |

《考察》

努力目標(3)「社会性の育成」に関しても、全体としては高い評価であった。ただ、生徒・保護者と教員間での見識の違いが見られた。

設問7の社会性・規範意識、基本的な生活習慣が身につけているとした内訳は『特にそう思う』が、生徒・保護者で44.4% 44.5%とほぼ同パーセンテージに対し教員では28.8%と、基本的な生活習慣が特に高くはないと評価している。しかし生徒の大多数は規範意識を持って生活していることがうかがえる。

設問8の環境美化・安全・省エネについての意識についても、肯定的評価は高い。だが『特にそう思う』の内訳は生徒・保護者・教員それぞれ28.5% 19.6% 17.8%と高くはなく、また教員のポイントは生徒より低くなっている。震災以降、省エネ節電への意識が高まったが、同時に生活する場の環境美化の意識を身につけさせる指導も続けていくことが大切である。

設問9の部活動の積極的参加については、大多数の生徒は運動部、文化部活動に熱心に取り組んでいると言える。本校は部活動をとおして「社会性を身につけ自己実現を図る」という努力目標を掲げる。この設問の教員の肯定的評価は約9割と高いのだが、内訳の『特にそう思う』は34.2%と高くはない。これからも「社会性を身につけ、自己実現を図る」の目標を持たせながら、部活動の活発化のためにも、生徒がよりよく活動できる環境を整備することは今後も必要かと思われる。

一方3割弱の生徒は部活動には積極的には参加していないと回答した。こうした生徒の受け皿を考える必要もある。もちろん、資格取得の勉強やアルバイトなどで自己実現の場がある生徒については、この数字に表れてこない。課題は、明確な目的意識を持たない生徒に対する指導である。

努力目標（４）「地域との連携推進」に関して
《データ》 ※（ ）は今年のパーセンテージ

○生徒アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- 10 学校からの配布物をきちんと家族に渡していますか。 78.2% (81%)
11 外部講師による研修などに積極的に取り組んでいこうと思いますか。 74.7% (80%)
12 本校の教育活動・学校運営の状況は、授業参観や研究発表、学校評価などによって、外部に適切に発信されていると思いますか。 79.2% (76%)

○保護者アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- 10 学校からの配布物、ホームページ、一斉メール、PTAの各種会合などによって、知りたい情報を得ることができていますか。 71.9% (81%)
11 本校が地元企業との連携をいかした取り組みなどを行っていると思いますか。 84.7% (87%)
12 本校の教育活動・学校運営の状況は、授業参観や研究発表、学校評価などによって、外部に適切に発信されていると思いますか。 76.4% (81%)

○教員アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- 10 学校からの情報はHPや配布物、各種会合などをおして、有効に発信されていると思いますか。 68.5% (76%)
11 専門高校プロジェクト事業など外部事業に関わる校内の協力体制は整っていると思いますか。 72.6% (70%)
12 本校の教育活動・学校運営の状況は、授業参観や研究発表、学校評価などによって、地域・保護者に適切に発信されていると思いますか。 69.9% (64%)

《考察》

努力目標４「地域との連携推進」については7割以上の肯定的評価だったが、先の努力目標と比べてみると評価が低い。また昨年の評価と比較しても低くなった設問も多い。

設問10の学校と家庭との情報の共有化について現状を問う設問では、生徒・保護者・教員それぞれ昨年と比較して数パーセント下がっている。今以上に下がらないようにする手だてが必要である。生徒へは配布物の手渡しの徹底の呼びかけと、保護者へはホームページや会合を通じてどのような情報が得られるか等の説明も必要である。

設問11の産学官連携の推進の状況を問う設問の肯定的評価の内訳では、生徒・保護者・教員とも『少しそう思う』と評価したのは『特にそう思う』の評価の2倍以上となっており、これもまた手だてが必要である。

設問12の学校運営や教育活動の公開についての状況を問う設問では『少しそう思う』の評価は、『特にそう思う』の3倍である。更なる検討が必要と思われる

(5) 「学校全般について」からわかること

《考察》

学校全般についてのアンケートは、生徒・保護者・教員とも昨年と同様のアンケートを行った。

生徒対象には設問 13 の教育相談やカウンセリングの認識、設問 14 のホームページの周知度、設問 15 の一斉メールへの登録、設問 16 の学校生活への満足度をみるアンケートを行った。

設問 13 の否定的回答が 5 割弱となっているが、生徒にとって教育相談部は精神的な安らぎや相談の場として、今後もさらに重要性を増すと思われる。

設問 14 の否定的回答が 6 割弱と高い。生徒が学校のホームページへの関心が低いことを表している。学校全体の事に関心が低いのは残念な事である。

設問 15 については登録している生徒はほぼ 4 割であった。

設問 16 の肯定的回答が 93%。内訳の『特にそう思う』は 56.9%と満足度は高い。一方 7%の生徒は何らかの不満を抱いている。授業や部活動、学校行事などさまざまな場面で、生徒の自己肯定感を育む細やかな指導が今後も必要になってくると思われる。

保護者対象の設問では、設問 13 の保護者対象カウンセリングの活用、設問 14 の P T A 活動などへの参加状況、設問 15 の本校への満足度をみるアンケートを行った。

設問 13 のカウンセリングを活用したい肯定的回答が丁度 50%に上り、生徒だけではなく保護者が気兼ねなくカウンセラーを利用する手立てを検討してみてもどうか。

設問 14 の肯定的回答が前年 42%に対し 43.8%とほぼ変化はない。仕事や家事に多忙な中、学校まで足を運んでもらうには、HR 担任をはじめとした教員の丁寧な呼びかけが必要と思われる。

設問 15 の肯定的回答は 96.7%と非常に高い。前年も 99%と高かった。保護者の学校に寄せる期待は大きい。その期待に応え円滑に教育活動を行っていくためにも、担任との懇談会、各方部 P T A との連携など本校に対する理解を促していく努力が求められる。保護者と学校が車の両輪として機能するためにも、学校側の不断の働きかけが必要である。

教員対象の設問では、設問 13 の共通理解を持つての生徒指導、設問 14 の生徒に向き合う時間の確保、設問 15 の校務分掌の仕事量のバランスの良い割り振りについてアンケートを行った。

設問 13 の肯定的回答は 55%。昨年は 47%。例年肯定的評価が低い項目である。これは生徒や保護者の多様化等により、個々の指導を同じく出来ないことも要因だと考えられる。これからも教員の負担はさらに増えるものと。思われる

設問 14 の肯定的回答は 60%と、昨年の 51%から上がった

設問 15 の校務分掌の割り当てのアンケートでは、バランスよく仕事が割り振られていると思うとの肯定の回答は 40%で、昨年の約 25%から改善されている。ただし内訳では『特にそう思う』の回答は 5%に留まっている。

ものづくりを知る教員が、学ぶことの楽しさを生徒たちにより一層伝えることで、生徒も教員も元気で意欲的に活動していくことが出来ると思われる。こうした専門高校の特徴を生かし教員が一丸となって「社会に貢献できる人材」を育てていく学校づくりに励むことが重要である。

III 広報の概要

アンケートの結果については、3月に文書で生徒・保護者へ公表する。

IV 次年度へ向けて

総合的には本校の教育は生徒・保護者の期待に応じて成果をあげていると判断する。

更に実りのある教育活動をするために、改善に向けた工夫を次年度に向けて継続して求めていく必要があると思われる。